

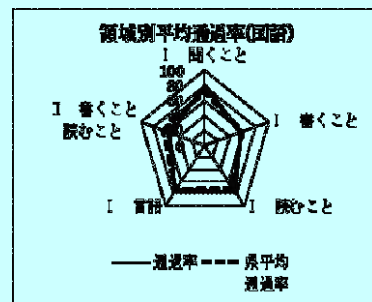
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.7%, 県 69.2%)

全国学力・学習状況調査
本年度通過率

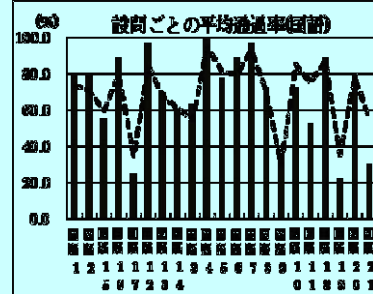
本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

領域別平均通過率



2017年度国語



A問題	
本校	81 %
広島県	78 %
全国	77.4%
B問題	
本校	80 %
広島県	73 %
全国	72.2%

○取組の成果と課題
昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率は74.7% (県 69.7%) で、平均通過率30%未満の生徒は0名であった。しかし、『叙述の仕方の確認』が16.1%や『段落相互の関係の把握』が48.4%に課題があった。この課題に対して「課題作文」を取り入れ、添削や推敲等の見方・考え方という取組をし、文章中にある叙述の仕方の誤答に気付く等の成果があった。その中で設問の性質によっては、基礎的な問題でも平均通過率が低い領域があり、課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
◎平均通過率は68.7%で、平均通過率30%未満の生徒は1名であった。書く読む領域『要旨の把握』22.2%、書く領域『叙述の仕方の確認』25.0%と平均通過率が低く、課題がある。
◇A問題の平均正答率は81%、B問題は80%であった。どちらも県平均、全国平均を上回っているが、必要な情報を取捨選択し、適切な表現に直す問題の正答率が低く、課題がある。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

- 【課題1】
◎【書くことと読むこと】において、『要旨の把握』について平均通過率が22.2%であり、文中から必要な情報を選び、決められた字数でまとめることに課題がある。
- 【課題2】
◎【書くこと】において、『叙述の仕方の確認』について平均通過率が25.0%であり、適切な主語や接続詞を使って文を構成することに課題がある。
- 【課題3】
◇A問題の、『先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す』問題の平均正答率が46.7%という結果であり、必要な情報を取捨選択し、適切な表現に直すことに課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

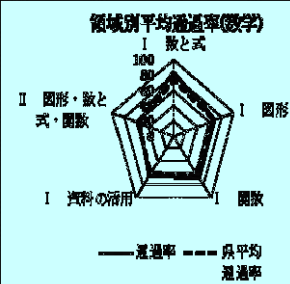
- 【課題1】
文中から必要な情報を取捨選択する力が必要である。そのため、文中のキーワードとなる語句や指示語などに注意して読む指導を行う。加えて、字数制限を設けた問題を多く解かせ、定着を図る。
- 【課題2】
古文など主語のない文を読む際、正しい主語を補いながら内容を整理する。また、様々な接続詞をまとめたワークシートを生徒に配布し、文章を読む際には接続詞の言い換えを行う演習、文章を書く際には多様な接続詞を意識的に使う演習を行う。
- 【課題3】
モデルを提示してどのように文中から必要な情報を取捨選択し、要約するかの課題に取り組み、定着を図る。

取組計画表

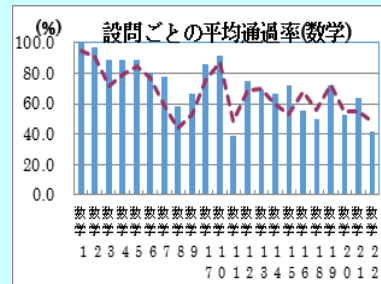
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	・通過率の低かった問題の誤答分析を行い、今後の授業での取組を考える。	知識定着のための復習プリント、ワークシートの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		書く領域において、多様な接続詞を意識的に使わせる指導を行う。 読む領域において、復習プリント等を用いて文中のキーワードとなる語句に気付かせる。	古文の学習の中で、正しい主語を補いながら内容を整理させる。	文章を要約する課題に取り組み、必要な情報を取捨選択できる力を身に付けさせる。	【見取り】 重点課題に関する問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 105%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 115% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 105%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み、定着を図る。	

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.0%, 県 66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題	
本校	69 %
広島県	64 %
全国	64.6%
B問題	
本校	51 %
広島県	48 %
全国	48.1%

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題
昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率 68.8% (県 66.8%), 平均通過率 30%未満の生徒は 2 名であった。課題としては、数と式領域「文字式の表し方」、「文字式の読み」、「関係を文字式で表す」、関数領域「事象の解釈と表現」、図形領域「球の体積」の平均通過率が他の領域より低い。事象を表すときに意味と関係を図や言葉の式で確認して表す取組をし、数と式の領域では成果があり、図形領域が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
◎平均通過率が 72.0% (県 66.9%), 平均通過率 30%未満の生徒は 1 名であったが、「円錐と円柱の体積の関係(38.9%)」「問題解決の方法の説明(41.7%)」の平均通過率が低く、円錐・円柱の理解や表や式を用いて説明することに課題がある。
◇資料の活用領域で、「記録の範囲」の平均正答率が 0.0% (全国 28.6%) であり、「範囲の意味」が理解できていないという課題がある。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

- 【課題1】
◎図形領域「円錐と円柱の体積の関係」の平均通過率が 38.9%であり、円錐の体積の求め方や円錐・円柱の理解が不十分である。
- 【課題2】
◎関数領域「問題解決の方法の説明」の平均通過率が 41.7%であり、表や式を用いて説明することに課題がある。
- 【課題3】
◇資料の活用領域「記録の範囲」の平均正答率が 0.0% (全国 28.6%) であり、範囲の意味が理解できていないという課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

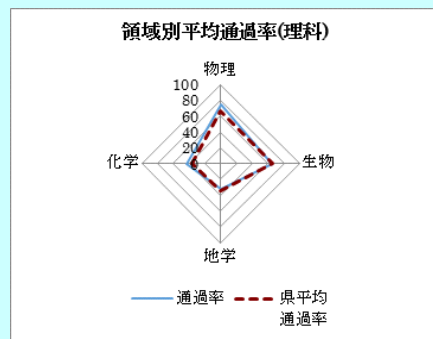
- 【課題1】
角錐・円錐の体積を求める式を考えるときに、直方体の模型を用いて指導しているが、円錐と円柱でも同じ関係になることを伝えるとともに、ワークシート等で繰り返し関係をつかませることで定着を図る。
- 【課題2】
関数における関係を、表や式と関連させて考えることを繰り返し復習し、それらを用いて説明することができるよう、ワークシートの工夫やグループ活動の中で説明する時間を設け定着を図る。
- 【課題3】
代表値と比べ、取り組んだ問題数が少なかったため理解できていないと考えられる。資料の活用に関わる用語と意味を繰り返し復習プリント等を用いて復習させることで定着を図る。

取組計画表

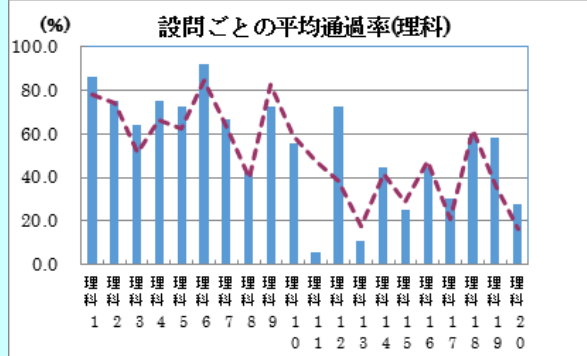
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のためのワークシート、小テストの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		ワークシートや復習プリント等を用いて、課題のあった内容を繰り返し取り組む。	【見取り】 中間試験に課題のあった内容に関わる問題を出題。	ワークシートや復習プリント等を用いて、課題のあった内容を繰り返し取り組む。グループ活動で説明させる時間を設ける。	【見取り】 重点課題に関わる問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 105%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 115% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 105%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み、定着を図る。	

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 53.9%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題
 昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率 60.5% (県 51.8%), 平均通過率 30%未満の生徒は 5 名であった。分野別平均通過率は、生物・地学分野は 60%後半だが、物理・化学分野はそれより 10% 低く、課題がある。この課題に対して、物理分野で類似した用語の混同を避けるため単語テストの取組をし、用語の意味を正しく理解できた生徒が増えた成果があり、用語の混同等が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 平均通過率が 53.9% (県 50.8%), 平均通過率 30%未満の生徒は 5 名であった。分野別平均通過率は、物理分野 74.4% (県 66.4%), 生物分野 65.6% (県 65.7%), 地学分野 31.7% (県 34.7%), 化学分野 43.9% (県 36.5%) であり、とくに地学分野において大きな課題がある。実験方法や実験結果から考察するときなど、自分の言葉で簡潔に表現することに課題がある。

重点課題

【課題 1】
 【地学分野】において、タイプ I 『火山灰を観察しやすくする準備を記述する』問題について平均通過率が 5.6% であり、実験方法について自分の言葉で簡潔に説明することなどに課題がある。

【課題 2】
 【化学分野】において、タイプ I 『メスシリンダーの目盛りを読み取り、物質の体積を読み取る』問題について平均通過率が 30.6% であり、問題の意味を正しく読み取りもっとも適切な解を答えることなどに課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

【課題 1】
 実験方法や実験結果から考察するときなど、自分の言葉で簡潔に表現し説明するために、必要な用語をより深く理解することが必要である。分野にこだわらず、類似した用語の混同に注意させる。また、適切な用語を用いた文章を作成する演習を行い、知識の定着を図る。

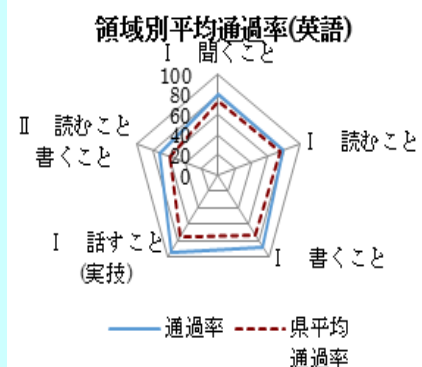
【課題 2】
 課題を提示して、どのような意図かを正しく理解するため、注意深く問題文を読み意味を理解するための演習を行い、文章読解力の定着を図る。また、技能テストを取り入れ、問題の意図を正しく読み取り正しく解答する力の定着を図る。

取組計画表

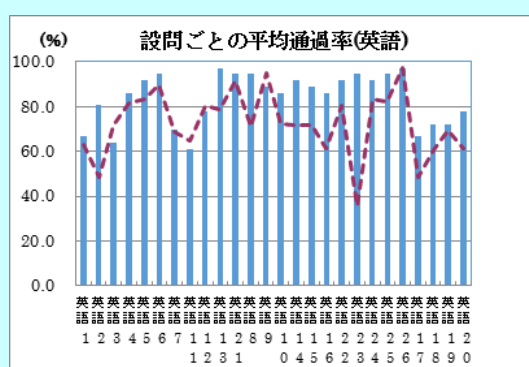
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のための用語テストの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組	中間テストにおいて、用語確認の問題を出題して定着を図る。	1,2年生 授業において、用語テストを作成・実施し、用語の定着を図る。 1年生 化学分野において、計量機器の使用時に実技テストを行う。	【見取り】 中間試験において、用語確認の問題を実施。	【見取り】 授業において、用語テストを作成・実施。また、記述問題・実技テストの取組の実施。	【見取り】 重点課題に関する問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 105%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 115% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 105%	1年生 地学分野において、個別実験を行い、全員が実験を行いきることができるよう指導する。	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み定着を図る。また、技能テストを実施。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 83.8%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率は66.0% (県 69.6%) であった。タイプⅠの平均通過率は69.8%、タイプⅡは45.0%、平均通過率30%未満の生徒は1名であった。「自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す」の平均通過率は20.0%、「適切な質問を考え英文を書く」の平均通過率は26.7%である。この課題に対して、英問をペアやグループで説明する活動や応答する活動、英文を声に出して読み、構文に慣れさせ場面を変えて語法を選ぶ活動に取り組むことにより、英会話に自信を持つ生徒が増え、理解が図れた。しかし、タイプⅡの「読むこと書くこと」が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

平均通過率は83.8%で、平均通過率30%未満の生徒は1名であった。タイプⅠの平均通過率は85.9%、タイプⅡは72.2%であった。この結果から、基礎的・基本的な学習内容は一定程度定着しているものと考えられるが、身近なことや自分の考えを基本的な英語を用いて表現することに課題がある。

重点課題

【課題1】

【聞くこと】において、リスニング問題の「会話の内容の理解と質問への適切な応答する」問題の平均通過率63.9%である。会話の内容を理解し、それに対する適切な応答を選ぶ問題に課題がある。

【課題2】

【読むこと】において、「適切な文を用いた会話文の組み立てをする」問題の平均通過率が61.1%である。自然な会話の流れを意識して意味を読み取り、適切な応答を書く問題に課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

【課題1】

会話文の聞き取り問題を授業の中で設定する。また、聞くだけでなく質問に対する適切な応答文をつくらせて答えるペア練習等に取り組み、英問英答に対応できる力を育て定着を図る。

【課題2】

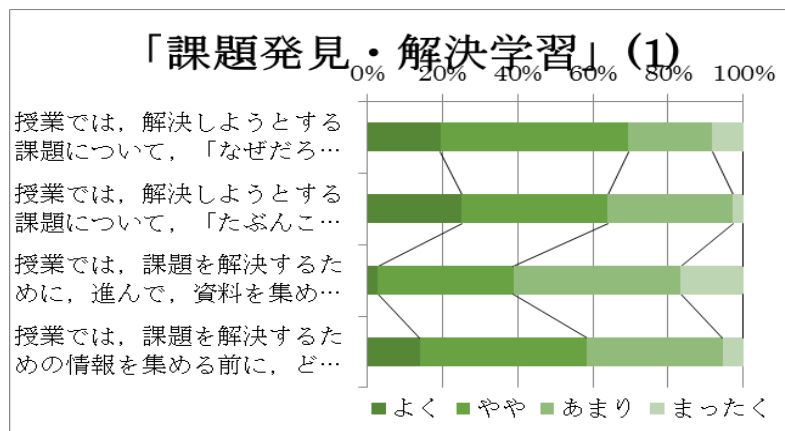
会話文に特有な表現を繰り返し音読練習をする。練習後にそれらを活用するアクティビティに参加することによって有用性を学び、書く課題と話す課題の両方で使えるように演習をする。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のための用語テストの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		授業において、単語テストや、課題のあった内容に関するワークシートや演習問題に取り組ませる。	中間試験に課題のあった内容に関わる問題を出題し、定着を図る。	授業において、単語テストや、課題のあった内容に関するワークシートや演習問題に取り組ませる。	【見取り】 重点課題に関する問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 105%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 115% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 105%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み定着を図る。	

別紙4 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

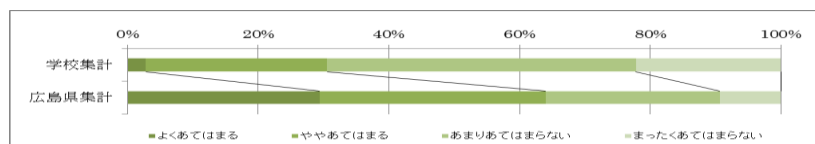
(1) 生活・学習



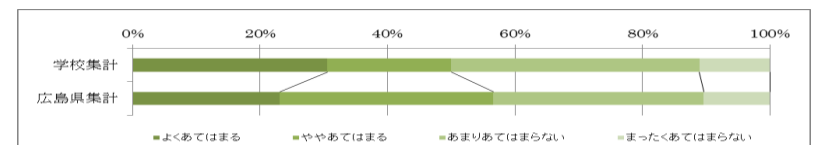
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「課題発見・解決学習」の「情報の収集」において『授業では、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています』の項目を肯定的に捉えている生徒の割合が38.9%であり、「情報の収集」に課題がある。	①各教科が「課題発見・解決学習」の導入部分等において、『どのように解決すればよいかを考え、必要な情報を集めて工夫する』具体的な教材づくり及び指導案を作成して来年度シラバスに入れる。 ②総合的な学習の時間において、「課題発見・解決学習」となる『資料を集め、取材する』場面を積極的に取り入れる学習を進め、生徒の学びの意識を変えていく取組を進める。	1・2	各学年50%以上	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成30年2月		

(2) 教科

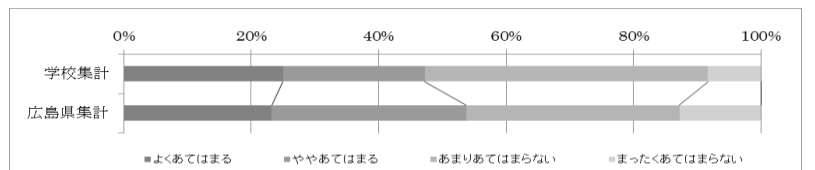
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



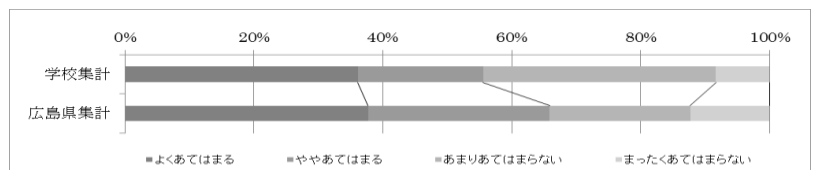
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	授業の中で、学んだことの振り返りをしている生徒は30.6% (県平均64.0%) である。	授業の中で、既習事項を振り返る場面や、活用できる課題をできる限り取り入れていく。	2	65%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成30年2月		
数学	解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明している生徒は50.0% (県平均56.6%) である。	説明するときの理由となるものを示し、それらを用いて説明する時間を設ける。	2	55%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成30年2月		
理科	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている生徒は47.2% (県平均64.5%) である。	観察や実験をする目的を意識させ、方法を考えさせたり、結果からわかることをまとめさせたりしたことを全員が発表する時間を設ける。	2	70%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成30年2月		
英語	分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べている生徒は55.5% (県平均65.9%) である。	家庭学習で英語日記を書いて、自分の考えを表現させるために、必要な語句を辞書で調べる機会を設ける。	2	65%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成30年2月		